

みんなのしあわせが
私のしあわせに

Annual Activity Report / 2019.4 - 2020.3

2019年度年次報告書



認定NPO法人
地球市民の会

2019年度 活動のお礼とご挨拶

2019 年度の活動の振り返り

「新たな事業が動き出した 1 年でした」

昨年度から進めている SDGs (持続可能な開発目標) は、種を蒔いた場所に水をやること (支援) を行いました。教育部門では、中高一貫の学校と SDGs 推進のための提携を結び、生徒へ SDGs 基礎学習やワークショップ等を行って来ました。

また、SDGs を導入したい企業へは、個別に導入のための支援事業も行っているところです。他に、佐賀県内で SDGs を取り組む企業や団体を紹介する「SDGs アクションブックさが」も制作しました。こちらは、当会のホームページからもダウンロードできます。

また、ミャンマーについては、チン州で地域の方も念願であった研修生が学ぶ農業研修センターができました。農業収入ゼロの農民たちが収入づくりのための知識を得れる場所となります。

タイ事業においては、志学生プロジェクトが始まり、貧困脱却のために少子高齢化が進むタイにおいて活躍できる介護の職を学ぶために佐賀の介護事業所に受け入れをしていただき、活動が始まっています。

事業に対し様々な方々のご協力もあり、広がりが出てきている一方で、懸念されるのは 2019 年 12 月から広がってきた新型コロナウイルス感染症の影響です。ミャンマーからスタッフの緊急帰国や本部でも在宅ワークなど、急な対応に追われました。行政も様々な政策を実施していますが、それでも末端の人たちに手が届かない部分もあるかと思えます。そういった隙間の部分にこそ市民活動団体 (CSO) として動ける部分ではないかと思えます。新型コロナウイルス感染症は世界中でまだまだ拡大し続けております。当会の事業へ大きく影響が出てこないか心配しておりますが、今こそ市民活動団体として手を差し伸べることを考えていかなくてはと思っています。

2020 年度は急速に、且つ、大きく時代が変化する年になると思えます。その時代に沿った活動も考えていく必要性が出てきております。

これからも変わらぬご支援の程、何卒、よろしくお願いたします。



会長 佐藤 昭二

SDGs の旗をかかげて

「文福茶釜の世は来たり」過去に機関紙に掲載させて頂いた通りの事柄が次から次へと起こっております。

世界各国が国を上げて「化けの皮が」剥がれてきているのです。すなわち「ごまかし」は効かないということでありましょう。

2019 年～2020 年正に激動の一年でありました。

その中において私たち「地球市民の会」理事及びスタッフ一同は政治、宗教に片寄ることなく、ボランティアの皆様、支援者の皆様のお力をお借りし「SDGs」の旗をかかげて、国内、タイ、ミャンマー、スリランカ事業を順調に進めさせて頂いております。

これもひとえに皆様方の温かいご支援、ご協力のおかげであります。

今後とも宜しく御願申し上げます。



(文福茶釜の世は来たり)



理事長 山口 久臣

いつでも何処でもリスク・マネジメント (安全対策) の地球と時代に生きて

2011 年 3 月 11 日に突然起こった東日本大震災では死者・行方不明者を併せて約 2 万 2 千名以上の犠牲者を出した超自然大災害となりました。また、2016 年 4 月 14 日の前震と 16 日の本震と云う大揺れに突然襲われた平成 28 年熊本地震。そして近年、毎年の様に襲われる集中豪雨やスーパー台風による大水害はすべて気候変動によるものであると思えます。更には、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によるパンデミック (世界的感染爆発) 等々と私たちの周りには、“危機”が満ちていると云っても過言ではありません。そのような中で、私たちは日々、それぞれの場所で「個」「組織」「地域」「国」として地球・地域的なリスク・マネジメント (安全対策) が不可欠なのであります。そして、それらのリスク・マネジメント力のレベルを上げて行くには人間の経験と英知とスキルと心が必要なのだと思えます。

私たち地球市民の会の事業・活動もこれらの日々、場所とあらゆる状況の中での危険を想定しリスク・マネジメント (安全対策) 力を高めて行くことが不可欠です。それらのことをそれぞれがあらゆる場面で肝に銘じて 2020 年度も元気に過ごしていきましょう。

目次

- [P.01] 表紙
- [P.02] 2019 年度 活動のお礼とご挨拶
- [P.05] 2019 年度 事業一覧
- [P.06] 国内事業
- [P.09] 奨学金事業
- [P.10] ミャンマー事業
- [P.19] 支援を受けたみなさんからの声
- [P.20] 2019 年度 ～活動計算書・貸借対照表・監査報告～
- [P.22] 2020 年度 活動方針
- [P.26] 2020 年度 当初予算書 (案)
- [P.27] 私たちについて
- [P.29] 支援者の方々からの声
- [P.30] いろいろなお支援を紹介

スタッフ一覧

《本部事務局》

佐賀事務局



岩永清邦
(事務局次長)



廣瀬伸恵
(事務局次長)



山路健造
(国内事業担当)



諫山由紀子
(ミャンマー事業担当)



江口恵美
(会計担当)



秀島彩女
(奨学金 / 国内事業担当)
2019 年 12 月退職



武富有香
(奨学金 / 国内事業担当)
2020 年 4 月入職

《ミャンマー事務所》

ヤンゴン事務所



柴田京子
(プロジェクトマネージャー)



マ・イーシー

タウンジー事務所



鈴木亜香里
(プロジェクトアドミニストレーター)



クン・トゥン・ウィン



サイ・トゥン・エー



クン・ゾー・ゾワ・マウン



マ・モー・モー・トゥエ

タンボジセンター



マ・ワー・ワー・ライン
(センター長)



ウ・シェイン



ウ・ウィン・シュエ



ドー・キン・サン・ウー

ナウンカセンター



クン・ソー・アウン
(センター長)



クン・シュエ・トウ



クン・ティー・レー

フィールドコーディネーター



ウ・ミョー・ミン



クン・ティッ・サン



クン・マウン・ヨー

ミンダ事務所



神崎涼子
(プロジェクトアドミニストレーター)



コ・マンリン



ベンジャミン



テリライビン



ヘイン・ラッ・テツ

ライレンピーセンター



ウ・ザベタン
(センター長)



ウ・ゾー・リン



マ・グンテイ



トゥライ・ゼ



ウ・ビエラ



ゾータン

事業報告書 Activity Report 2019

日本
タイ
奨学金
ミャンマー



2019年度事業一覧



事業内容	実施日時	実施場所	従者(人)	受益対象者の範囲、人数	支出額(千円)
中山間地域づくり事業	通年	吉野ヶ里町	1人	参加者 延べ 100名	90
SDGs 推進事業(講師派遣、アクションブック作成費等)	通年	佐賀市内	1人	参加者 延べ 850名	10,930
子どもの居場所づくり事業	通年	佐賀市内	1人	参加者 延べ 600名 ボランティア 延べ 150名	21
ふるさと納税(他事業、返礼品含む)	通年	佐賀県内	1人	寄付者 593人 返礼品提供者 32社	9,360
その他(研修、イベント等、ネットワーク設立支援事業)	通年	佐賀県内	2人	タイ関係者 20人 イベント参加者 120人	204
タイ事業(志学生プロジェクト)	通年	佐賀市、神埼市、タイ東北部ウドンタニ県、南部ナコーンシータンマラート県	1人	学生 2人	122
ばーんたわん	通年	佐賀市	1人	購入者 30人	10
小 計					20,737
奨学金支給	通年	スリランカ: サンガミッタ女子校 ミャンマー: タンポジセンター、パラヒタ	7人	スリランカ高校生 40名 ミャンマー高校生 74名	3,628
イベント(さとおやの集い)	11月	佐賀市	3人	参加者 さとおや 10名	1
小 計					3,629
シャン州・チン州の山岳少数民族地域における循環型農業普及と農業環境整備による生活改善事業(ナウカ農業用水給水) (外務省 NGO 連携無償資金)	10月~	シャン州タウンジー郡ナウカ地域	3人	対象地域の住民 500名	159,816
シャン州・チン州の山岳少数民族地域における循環型農業普及と農業環境整備による生活改善事業(ライレンピー農業研修センター建設) (外務省 NGO 連携無償資金)	通年	チン州マトゥピー郡マトゥピー町、ライレンピー町	10人	対象地域の住民約 23,000名	
チン州の山岳少数民族地域における水環境整備事業(外務省 NGO 連携無償資金)	1月~	チン州ミンダ県ミンダ町	5人	対象地域の住民約 12,000名	4,071
インレー湖環境汚染調査事業(三井物産環境基金)	通年	シャン州インレー湖周辺地域	2人	インレー湖周辺住民 160,000名	
ホテアオイ堆肥製事業(日本国際協力財団)	通年	シャン州ニャウンシュエ郡ヌワダマ村	3人	対象地域の住民約 700名	1,344
インレー地域における水環境保全事業(緑の募金)	7月~	シャン州ニャウンシュエ郡ミンチャウン村落郡ヌワダマ村	3人	対象地域の住民約 700名	
ライレンピーアグロフォレストリー普及事業(緑の募金)	~6月	チン州マトゥピー郡ライレンピー町	8人	対象地域の住民(2村) 約 590名	1,461
タンポジ井戸修繕事業(個人寄付)	10月~1月	シャン州ニャウンシュエ郡タンポジ農業畜産研修センター	2人	タンポジセンターのスタッフと高校生 17名	
ナウンサン小学校トイレ建設事業(久居ライオンズクラブ)	1月~3月	シャン州タウンジー郡ホッポン郡ナンコック村落郡ナウンサン村	3人	児童 24名、教師 2名	1,818
レーカウン中学校校舎建設事業(マイナビ世界子ども教育財団)	4月~8月	チン州ミンダ県レーカウン村落区レーカウン村	5人	児童・生徒 104名、教師 9名	
カーエイン準中学校教育支援事業(個人寄付)	11月~	チン州カーエイン村落郡カーエイン村	5人	児童・生徒 26名、教師 2名	65
ハトムギ栽培・加工事業	5月~	シャン州ニャウンシュエ郡タンポジ農業畜産研修センター	5人	ハトムギ栽培農家約 100世帯とタンポジセンターのスタッフと高校生 17名	
ナウンタヤ給水事業(ゆうちよ財団)	2018年度中	シャン州ピンラウン郡ナウンタヤ村落郡	2人	対象地域の住民約 2,700名	1,920
その他(物販・スタディツアー等)	通年	佐賀市、東京都、シャン州、ヤンゴン	8人	来場および参加者およそ 600名	170,495
モン州豪雨水害支援募金(個人寄付)	8月~10月	日本、ヤンゴン、シャン州、モン州	3人	対象地域の住民約 3,700名	
小 計					170,495

国内事業の活動報告



自社の理念を紐解き、SDGsに繋げていきます



SDGs導入支援（経営戦略支援プログラム）

SDGsアクションプラン作成を始めた企業数 **3社**

時期：2020年1月～現在

SDGsを経営に取り入れたい中小企業への支援として「SDGs経営戦略支援プログラム」を展開しています。SDGs企業行動憲章をつくり、その達成に向けたアクションプラン（行動計画）をつくるために、SDGsに関するセミナーや社員さんとのワークショップなどを実施します。社員さんでつくったタスクチームで会社の未来像や果たすべき社会的役割などを話し合い、最終的に経営陣に提案するという流れです。

2019年度は、(株)サガプリンティング様（佐賀市）、(株)西村商店様（上峰町）、田島興産(株)様（佐賀市）の3社がプログラムに着手。新型コロナウイルス感染症の影響で年度中のプラン完成には至りませんでしたが、「とても良い人づくりの機会でした」「提案を経営陣は真摯に受け入れてくれ、ずっとこの会社で働きたいと思いました」などの感想をいただきました。

地元の龍谷学園と提携しSDGsを生徒へ伝えました



自分の興味あるSDGsの番号を発表してもらいました



22回の講演および授業を、 生徒延べ**2520名**、教師**80名**に実施しました

時期：2019年4月～現在

2019年6月に協定を結び、授業の中でSDGs基礎からワークショップまで行いました。講演を聞き、自分の興味のあるSDGsの番号を更に深く調べ、最後はクラスで発表するという行っています。それぞれ、自分が行っている活動が地域だけでなく、世界にも繋がっていることを知ることで自分が何のために活動しているかがより理解できたと言います。また、佐賀県内でSDGsに取り組んでいる企業や行政の取り組みを集約した「SDGsアクションブックさが」も龍谷の生徒にも協力をいただき制作しました。（ネットで「アクションブックさが」で検索するとダウンロードできます）

SDGs官民連携円卓フォーラムを設立しました

官民代表者**10名**と設立をしました

時期：2019年10月～現在

SDGsを単体だけでなく、すべてのセクターで広げていくことを目的として同フォーラムを立ち上げました。理事メンバーには行政、大学、マスコミ、組合の方々で構成され、今後SDGsを佐賀県内に普及するための議論を行っています。

設立時には、記念イベントとして日本総合研究所の方にご講演をいただきました。2019年度の途中から、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、イベント等は延期になりましたが、次年度以降は様々なイベントなどを行い、普及活動を行っていきます。



記念講演には80名を超える人が集まりました



豪雨被害にあった自宅の掃除を行いました



令和元年佐賀豪雨の支援を行いました

NPOを中心とした**51団体**と佐賀豪雨支援

時期：2019年8月～現在

2019年8月下旬に発生した豪雨により佐賀県では大きな被害を受けました。これまで、経験したことのない豪雨で冠水するところが相次いで出ていました。その中で当会も賛同している佐賀災害支援プラットフォームは被害を大きく受けた5市町を中心に、物資やボランティアの派遣を行いました。また、県外からの支援をニーズがある場所へ誘導など中間支援の機能を果たしました。佐賀は災害が少ない県として県内外からの見方でしたが、今後はどこで起きてもおかしくない事態になっています。新型コロナウイルス感染症も重なり、今後は地域内で支援できる仕組みが必要となってくると思います。



外で思い切り遊びました



子どもの居場所づくり事業

2019年度に居場所を訪れた子どもの数 **456名**

時期：2017年8月～現在

3年目になった子どもの居場所も、毎月遊びに来る子どもの顔ぶれも同じようになり、その子どもたちにとって家庭、学校に次ぐ第三の「居場所」になっています。実行委員会の地域の方々も毎月来ると子どもはすっかり覚え、道端で会っても挨拶ができる関係づくりができています。また、実行委員会のメンバーに新たな方も増え、少しずつですが、地域の大人が地域の子どもの見守り、育む形ができています。

この居場所が長く継続的に続いていけるように当会としてもサポートを行っていきます。

（委託先：佐賀市）



夢の学校の子どもたちへSDGsを伝えました



リベラルアーツ（講師派遣）

ワークショップに参加した児童数 **100人以上**

時期：2019年4月～現在

小学校の時から地球市民としての視野を養ってもらおうと、同じ事務所で開かれる放課後スクール「夢の学校」で、地球市民の会スタッフによる「リベラルアーツ」（教養教育）を行いました。授業では、各事業の担当に基づき、SDGsに関するすごろくをしたり、ミャンマーの奨学生に手紙を書いたり、災害時に在住外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」について学んだりしました。1年間で延べ100人以上の児童に、世界で起きている問題について考えてもらう機会を提供しました。



担当者コメント

岩永清邦（事務局長）

昨年度は、SDGs推進事業を、様々な団体と連携して実施しました。これまでなかなか接点がなかった企業様や学校関係者とも繋がることができ、改めてSDGsが共通言語ということを実感しています。また、佐賀は災害が少ない県と言われていましたが、2019年8月の豪雨災害、2019年度末には新型コロナウイルス感染症と、災害、感染症と大きく時代の変化が起きている局面とさえ感じます。

今こそ、SDGsの旗印のもと、様々な団体とより密に連携して、この難局を乗り越えて行きたいと思っています。

※持続可能な開発目標(SDGs)は、「誰一人取り残さない」世界の実現を目指す、2030年までの国際目標

国内事業の活動報告



志学生プロジェクト

タイの貧困を解決する介護留学事業が
スタートしました 時期：2019年4月～現在



介護施設の入所者さんと交流するYuさん(右)

1990年から始まったタイ東北部での奨学金事業。当会を象徴する事業の一つでしたが、タイの経済成長により「地球市民の会としての役目は終わった」として、2018年春で終了しました。しかし、タイでは格差が広がり、日本以上のスピードで少子高齢化が加速。「何か別の形でタイと事業展開ができないか」と模索し、2019年度からスタートしたのが、介護留学事業「志学生プロジェクト」でした。

同プロジェクトでは、介護事業所の株式会社ライフサポートNEO様と、「Be Family プロジェクト」で協働してきた「タイ日人材育成協会」（南部ナコーンシータンマラート市で柳川タイ中学校を運営）と連携。協会が推薦した学生が日本へ留学し、日本語学校、介護福祉士養成のための短大へと進学します。株式会社ライフサポートNEO様は、この学費を「貸与型奨学金」として貸与し、学生に介護施設でのアルバイトの仕事を提供していただきます。学生は働きながら日本語と介護技術を習得するとともに、アルバイト代から少しずつ奨学金を返済するという仕組みです。将来的に、タイで介護施設の需要が高まったときに施設の責任者として働くことで、貧困の連鎖を断ち切ろうというプロジェクトです。

第1号として2019年4月に来日したのが、Thanompol Uranutさん（ニックネーム：Yuさん）です。Yuさんは幼い時に両親が離婚。お母さんは女手一つで5人きょうだいを育てようと、事業をするも失敗してしまいます。Yuさんは大学進学も諦め、お母さんの借金を一緒に返そうとしていたときに、志学生プロジェクトを知ります。「自分の人生を日本へ行って変えたい」。その思いで、現在、日本語と介護施設での仕事を頑張っています。

第2号の学生も2020年4月に来日予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、来日が延期となっております。また彼女も佐賀で生活ができるように、新型コロナウイルス感染症終息を見越した準備を進めていきたいと思っております。

株式会社ライフサポートNEO 吉田和正さん



弊社は地球市民の会のタイの農村部の学生を支援したいという思いに共感し、一緒に活動しております。志学生第1号のYuさん（ニックネーム）は、介護業務に関しても覚えが早く、利用者様たちからも「YuちゃんYuちゃん」と声をかけて頂き、皆さん笑顔で接して下さっております。職員からしても妹のような存在で、一緒に語学の勉強をしたり、介護の勉強をしたりと毎日、楽しく過ごされているようです。

今回は来日にあたり、家具や衣類などのご寄付をいただき、ありがとうございました。2020年度の学生は、新型コロナウイルス感染症の影響で来日が遅れておりますが、介護の技術を身に着けることで、一人でもタイの若者が明るい未来を築けるように、手助けをしていきたいと思っております。

担当者コメント

山路健造 (国内事業担当)



2019年度より、タイ事業は新たなプロジェクトを始めることができました。「タイの貧困の連鎖を解決するとともに、日本の社会問題についても同時に解決できるようなプロジェクトを進めていく」をコンセプトに、日タイで社会問題を解決するパートナーとして、ともに活動していければと思います。また、留学生たちのために、家具や自転車などをご寄付いただき、ありがとうございました。お陰様で、楽しく日本で生活できています。

奨学金事業の活動報告



スリランカ、ミャンマーの123人の高校生を支援



2019年度の地球市民の会奨学金支援では、160名のさとおやさん（支援者）にご支援頂き、スリランカ40名、ミャンマー83名の高校生を支援することができました。

スリランカでは、2019年4月に旧首都コロomboにて爆破テロが発生し、一時国内の情勢が不安定となりましたが、そんな混乱の渦中でも子どもたちは安全を守りつつ勉学に努め、高校最終学年のさとご10名は無事高校を卒業することができました。

ミャンマーでは、当会が運営するタンボジセンターで暮らし、農業を学びながら学校へ通う「タンボジ奨学金」にて2学年17名のさとごを支援し、2019年3月に9名のさとごが高校卒業を迎えタンボジセンターを巣立っていきました。

また、経済的困難を抱えつつ自宅から学校へ通う通学生を支援する「シャン奨学金」は、2019年4月より、僧侶または地域の有志が運営する子ども寮に住む高校生への支援に変更となりました。子ども寮に住む子どもの多くは、「自分の村に中学校までしかない」「町の学校に行くための寮費が高くて払えない」などの事情から、学校に行くことを断念せざるを得ない境遇にありました。子どもたちは子ども寮で生活し、僧院学校や寮から近い公立高校で学んでいますが、寮は寄付で運営されており、決して豊かな生活とは言えません。「シャン奨学金」では、学ぶ喜びを噛み締めながら勉強に励む子どもたちの未来を支える力となるよう支援を開始し、2019年4月より1学年30名のさとごを支援しています。

子どもたちにとってさとおやさんは「日本の家族」であり、「困難へ立ち向かう励み」です。地球市民の会の奨学金支援では、さとごさとおやさんの心をつなぎ、一人でも多くの子どもたちが教育の機会を得て、豊かな人生を送ることができるよう支援を続けていきます。

担当者コメント



マ・ワー・ワー・ライン (タンボジ農業畜産研修センター センター長)

日本のさとおやの皆さまのご健康とご多幸をお祈りしています。外国にいる子どもたちを、大きな志で支援してくださって、本当に嬉しいです。世界中で新型コロナウイルス感染症が流行していますが、さとおやさんからたくさんご心配の声をいただき、ありがとうございます。将来の農村リーダー育成のために、これからも一生懸命尽くしていきたいと思っております。自分の国、自分の民族のために、できる限り私は頑張ります。ご支援いただいているさとおやさんに、国を代表して、子どもたちを代表してお礼を申し上げます。ご健康に気をつけてお過ごしください。



秀島彩女 (奨学金/国内事業担当)

奨学金事業を通して改めて人とのつながり、思いやりの大切さを感じました。子どもたちの切実に学びたいという思いやさとおやさんへの感謝の思いを、みなさんに届けたいという一心で事業に取り組みました。日本と海外という遠く離れた場所においても双方の温かな思いやりの心が感じられる事業となりました。奨学金事業をご支援いただいたみなさま、心から感謝しています。

ミャンマー事業の活動報告 (シャン州)



堰から各所へ配水する水門が完成

全長183mの堰を整備し乾季でも農業を可能に二期作の実現で農民の所得向上へ

ナウンカ地域 農業堰建設

時期：2018年10月～現在

ナウンカ地域では住民の9割以上が農業を営んでいます。しかし灌漑設備がないため雨季の天水に頼った農業をしており、雨が降らない乾季には作物栽培ができず、収入に大きく影響しています。また、雨季の時期が遅れると適正な時期に種をまくことができず、収量が減ってしまいます。

こうした課題に対し、年間を通じて農作物の栽培ができるよう、2年間かけてこの地域に農業堰と農地への配水路を整備しています。いつでも使用できる農業用水が確保されることで安定した収量も見込めます。事業終了後は地元の人たちが管理していけるよう、地域の首長をはじめとする維持管理委員会を組織し、水使用規則などの策定も行っています。

(助成元：外務省 NGO 連携無償資金協力)



年間を通して
水が利用できるようになる人
4村711世帯
農地 **280ヘクタール**



タンボジセンターに来て以来、初めて水が出たのを見た子もいました

センターで暮らす子ども **約20人**

地域農業を支える力として
ミャンマーの農村を担う若者を育成するために

タンボジセンター井戸修繕

時期：2019年10月～2020年1月

地球市民の会が運営するタンボジ農業畜産研修センターでは、循環型農業を実践するデモファームを整備しつつ、経済的困難から学校に通えない村の高校生を受け入れています。そんなセンターに水を供給していた山の上の水源が枯れ、更に深井戸は老朽化により十分な揚水ができず、深刻な水不足に陥っていました。地球市民の会では、皆さまのご寄付で新しい井戸を掘り、生活する子どもたち、地域農業を支える水環境の整備を行いました。

(タンボジ井戸掘募金へのご寄付：個人寄付者6名)



ホテイアオイ堆肥を作っている様子

インレー湖の嫌われ者「ホテイアオイ」を堆肥化するソーシャルビジネス

ホテイアオイ堆肥化と土壌流入防止

時期：2019年4月～現在

インレー湖の水面には、外来種の水草ホテイアオイが大量発生しています。通船障害を引き起こしたり、湖の生態系を変えてしまったりするホテイアオイに、地元の人たちは困り果てています。嫌われ者のホテイアオイを除去するため、陸地に引き揚げ、堆肥を作って農業に活用する事業を行っています。ホテイアオイには窒素が豊富に含まれているため、堆肥に適しているのです。現在は、有効成分が豊富で、コストを抑えた堆肥を作ろうと奮闘中。数年後には、新たな助成金の投入なしに、堆肥の売上だけで継続できるソーシャルビジネスとなることを目指しています。また、インレー湖への土砂流入を防ぐために、地元の人たちと協力して植林と雨季のコメ作りも行っています。

(助成元：日本国際協力財団、緑の募金)

引き揚げたホテイアオイの量
40トン
植林本数 **7,000本**
雨季植えを行った田んぼ
130エーカー



浸水時の汚水の流入で井戸水が飲めなくなった学校に浄水器を寄贈しました

暮らしを取り戻すために
子どもたちの「学び」を守るために

モン州豪雨災害支援

時期：2019年8月～2019年10月

2019年8月に発生した豪雨により、ミャンマー南東部にあるモン州では大規模な土砂崩れや浸水被害等が発生しました。一部の地域は道路の寸断により取り残され、支援物資が届かないといった事態も発生しました。地球市民の会では募金を呼びかけ、甚大な被害を受けた村の学校4校に、机と椅子や、制服や文房具などを寄付しました。浸水により井戸水が汚れてしまった学校へは、子どもたちが安全な水が飲めるように浄水器を寄贈しました。

(モン州豪雨災害支援募金へのご寄付)

学ぶ環境を取り戻した学校 **4校**



ミャンマー事業の活動報告 (シャン州)



インレー湖調査の様子

インレー湖の環境をデータに基づいて保全する

インレー湖環境汚染調査

時期：2017年4月～2020年3月

インレー湖の環境問題について取り組む団体は多くありますが、これまで科学的なデータの整備が不十分でした。そこで本事業では、東洋大学の先生方にご協力いただき、インレー湖の水質調査や村落調査、観光業者への聞き取り調査などを実施。地元の環境活動団体や政府担当者を招いたワークショップを実施し、集まった情報を共有しました。3年間の事業はひと段落しましたが、今後もインレー湖の環境保全活動を続けていきます。

(助成元：三井物産環境基金)



ワークショップの様子

ワークショップ実施回数
1年間に3回
参加者数 延べ104人



完成したナウンサン小学校のトイレ

トイレがキレイだと学校に通うのが楽しくなる

ナウンサン小学校トイレ建設

時期：2020年1月～2020年3月

久居ライオンズクラブ様には、2017年にナウンサン小学校の校舎建設をご支援いただきました。その後、ナウンサン小学校からトイレが無くて困っているという話が出たため、追加でトイレ建設のご支援をいただきました。1回で終わりではない関係が築けています。

(支援者：久居ライオンズクラブ)



トイレを使えるようになった生徒数
35名



タンボジセンターに設置されたハトムギの殻を剥く機械

日本企業と契約栽培を進め農家に安定収入をもたらす

ハトムギ栽培・加工

時期：2017年5月～現在

これまで、シャン州の多くの農家はトウモロコシ栽培を行ってききましたが、トウモロコシは中国の需要に大きく左右され、価格が安定しません。価格が下がった年には赤字になることもよくあります。そこで、日本の企業と協力して、ハトムギの契約栽培を進めています。事前に買い取り価格が決まっているので、農家は安心して栽培することができます。農家が作ったハトムギを地球市民の会が運営するタンボジセンターに集荷し、当会スタッフが加工をした後、日本まで送っています。

(協力先：西田精麦株式会社)



買い取ったハトムギの量 185トン



ミャンマー人スタッフたちが今後の在り方について議論の様子

日本からの支援が終えても地域住民主体で地域を支えていくために

現地 NGO (TPA Myanmar) 自立支援

時期：2019年4月～現在

これまで17年にわたりシャン州での活動を続けてきましたが、2022年を最後にシャン州での活動を終了します。その後は、現地スタッフを中心に設立した「TPA Myanmar」という現地 NGO が活動を続けます。TPA Myanmar がスムーズに活動できるよう、今から事業計画や資金計画の作成を始めています。「国際協力の理想は、国際協力がなくなること」と言われますが、その理想の形に近づいていきたいです。



ミャンマー人高校生たちと早朝から一緒に農作業も体験しました

地球市民の会の活動地を訪問農村の暮らしを体験し「豊かさ」を考える

スタディツアー

時期：2019年8月

現地の課題を知り、それに取り組む私たちの活動を知ってもらうことを目的としたスタディツアー。2019年度は全国各地から13名の参加者がミャンマーを訪れました。文化だけでなく、現地の人たちの生活に潜む課題を目の当たりにすることで、「平和とは何か」「豊かさとは何か」をそれぞれ考え深める機会となりました。今回は奨学金事業で『さとおや』として現地の高校生を支援してくださっている方も参加され、他の参加者からは「自分たちに身近にできる支援について考えさせられた」という感想も聞かれました。

参加者 13名



※持続可能な開発目標 (SDGs) は、「誰一人取り残さない」世界の実現を目指す、2030年までの国際目標

ミャンマー事業の活動報告 (チン州)



政府関係者や多くの住民が参加した落成式

1年をかけて地域開発の拠点が完成
循環型農業・栄養研修をスタート

ライレンピー持続開発研修センター建設・運営 時期：2018年10月～現在

ライレンピー町と周辺の村々では、過度な移動式焼畑が続けられてきたことが原因で農作物の収量が以前よりも大きく落ち込んでいます。何とか焼畑から脱却したいという農民が多くいるものの、知識や技術がないため仕方なく焼畑を続けている状況です。

そこで私たちは、循環型農業技術の普及拠点となる「ライレンピー持続開発研修センター」を建設しました。また、約2.4haのデモファームも整備。地球市民の会がチン州で初めて運営する研修センターとなります。

ライレンピー持続開発研修センターでは、シャン州で循環型農業を学んだスタッフが講師となり、3日間・7日間・1か月間の3タイプの農業研修を実施。初級～上級まで幅広い知識・技術を指導しています。また、女性を対象とした栄養研修も開催しており、特に妊産婦や乳幼児の栄養改善に注力しています。今まではこのような研修の機会が無かったため、研修生たちは非常に熱心で、バイクで何日もかけて参加しに来る人も。研修センターが担う役割の大きさを感じています。

今後は農業研修と栄養研修を継続するとともに、養鶏・養豚を行うための設備を整備します。また、デモファームで収穫した野菜、農機具、日用品などの販売所をオープンし、多くの人々の日常生活を支える拠点になることを目指します。

(助成元：外務省 NGO 連携無償資金協力)

育成された農業指導者 **3名**
農業・栄養研修参加者 **75名**



設置が完了した鉄条網と農地

移動式焼畑からの脱却への第一歩 家畜被害から作物を守るために

農地の鉄条網設置支援

時期：2019年11月～2021年12月

トゥイリン村では、移動式焼畑から脱却するためにコーヒー・コンニャク・アボガドなどの定住栽培を開始しました。しかし、近隣の村で飼育されている大型の家畜により、トゥイリン村で育てられていた苗木の多くが踏みつぶされる、食べられるなどの被害に。家畜の侵入を防ぐため、農地を囲う大量の鉄条網が必要でした。私たちは村の農業組合に対して鉄条網購入のための無利子貸付を実施。全長25kmの鉄条網で、約10haの農地を囲うことができました。

設置した鉄条網 **全長25km**



エソピア(左手前)から工事の説明を受ける
維持管理委員会メンバー

山岳地帯の深刻な水不足
給水設備の整備で環境改善へ

ミンダ町飲料水・生活用水環境整備 時期：2020年1月～現在

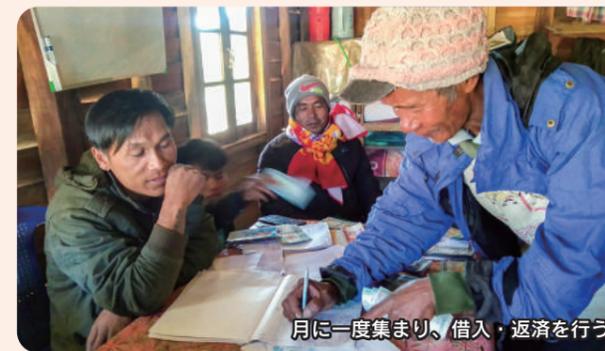
ミャンマーの中でもインフラ整備が特に遅れているチン州。ミンダ町にある既存の給水施設は欠陥が非常に多く、町に住む1万2,000人が必要とする水を配水することができません。特に夏季には深刻な水不足に陥り、月に1～2回しか配水されないため、女性や子供たちの水汲みの負担が大きくなっています。また、衛生状態の悪化により感染症が蔓延し、命を落とす子どももいます。

このプロジェクトでは、水源から町内までの約22.4kmを結ぶ給水設備の整備を実施しています。取水タンク、浄化槽、貯水タンク、配水パイプ等を設置予定です。地元有志からなる維持管理委員会を中心に、建設完了後の管理体制の構築も進めています。

また、町内の子どもたちを対象とした衛生研修も実施します。日本人歯科医の協力も得ながら、水をいかに有効に使い、清潔・健康を保つかについて啓発活動を行っています。

(助成元：外務省 NGO 連携無償資金協力)

水環境が改善される人 **12,000人**
衛生研修に参加する子ども **2,000人**



月に一度集まり、借入・返済を行う

“頼母子講”で資金集め 水のない学校に貯水タンクを

頼母子講支援

時期：2019年5月～2020年4月

32人が学ぶチン州エタヤ準中学校には、水道がありません。トイレや手洗いで使う水は、子どもたちが学校の外へ汲みに行っています。子どもたちの学ぶ時間を守るよう、村の人々は頼母子講を立ち上げ、貯水タンクの建設資金を集めることに。頼母子講では、各メンバーが毎月一定額を積み立て、それを希望者が低利子で借りることができます。より多くの人が借入できるよう、私たちも原資を支援しました。支払われた利子を貯め、学校敷地内に容量5,100リットルの貯水タンクを建設します。

(個人寄付)

水環境が改善される子ども **32名**



ミャンマー事業の活動報告 (チン州)



町内にある水汲み場

水環境が改善される人
433世帯2,926人



大規模な給水設備の整備で
水不足・水汲みの負担を解消へ

ライレンピー町飲料水・生活用水環境整備
時期：2020年1月～現在

ライレンピー町では、既存の給水設備の欠陥が多いため、慢性的な水不足が問題となっています。配水されるのは一日に2回で、1回あたりの配水は2時間のみ。各家庭まで水道が整備されていないため、町内に数か所ある水汲み場まで行かなければなりません。水汲みは女性や子どもたちの仕事です。持てる限りの水を抱え、山岳集落ならではの急な傾斜道を歩いて家まで運ぶため、女性の流産にも繋がっています。重労働であるだけでなく、運べる水の量が限られるため、家族が一日に使用する水には到底足りません。

私たちはライレンピー町の水環境改善のため、水源から町までの給水設備を整備します。十分な水が得られるようになれば、水汲みの負担減、衛生環境の改善のほか、私たちが農業・栄養研修で指導する家庭菜園の普及にもつながります。

(助成元：外務省 NGO 連携無償資金協力)



コーヒー研修の様子

コーヒーを軸としたアグロフォレストリー農法で
焼畑脱却、収入向上へ

ライレンピーアグロフォレストリー
時期：2018年7月～2019年6月

ライレンピー周辺では、過度な移動式焼畑による環境破壊と農作物の収量減少が長年の問題となっています。これらを解決するため、アグロフォレストリー農法によるコーヒーをはじめとした換金作物栽培を行い、森林保全と収入向上を同時に進めていく取り組みを開始しました。

モデル村2村を選出し、村内に育苗施設と給水設備を整備。日本人専門家による栽培研修に村のリーダーたちが参加し、いまでは彼らを中心に住民が協力して育苗、植林、農地の手入れを行っています。

2019年、ライレンピー周辺に居住するマラ族が「マラ農業組合」を結成。栽培地の拡大や販売先の開拓など、マラ族が一丸となってこのプロジェクトを進めています。コーヒーの収穫までにはまだ時間がかかりますが、標高1500メートルの高地で真心こめて栽培されたアラビカコーヒーを、ぜひお楽しみに！

(助成元：緑の募金)

植林本数 **5,000本**



新しい校舎を喜ぶ村の子どもたち

学習環境が改善された子どもたち
104人



老朽化した学校を新しく
安心と安全の中で学ぶために

レーカウン中学校校舎建設

時期：2019年4月～2019年8月

レーカウン中学校は1946年に開校しましたが、木造校舎の老朽化が著しく、校舎全体が歪んでいました。また壁や床材は腐敗により隙間ができており、雨季には雨風が吹き込み、教科書や子どもたちも濡れ、授業をする環境としては劣悪な状態にありました。地球市民の会では、子どもたちが年間を通して安全に学ぶことができるよう、村の人々と協力し校舎とトイレ4基の建設を行いました。また、地域で学校を支えていけるよう、村人で編成された維持管理体制と学校基金の創出の支援を行いました。

(支援元：一般財団法人マイナビ世界子ども教育財団)



臨時教師による授業

村で唯一の教師が産休に
臨時教師を雇い授業継続を支援

臨時教師の雇用支援

時期：2019年11月～2020年3月

カーエイン村には、生徒26人が学ぶ準中学校があります。村が僻地にあるため教師たちは赴任しませんが、たった1人の女性教師がすべての学年を担当していました。しかしその教師が産休に入ることになり、授業ができない状況に。私たちの支援により、高校を卒業した地元の女性を臨時教師として雇い、授業を継続することができました。今後また同じような状況で困らないよう、学校基金を創出する体制も整えました。

(バースデッドネーションへのご寄付、保育園ひなた村自然塾)



学ぶ機会が守られた子ども **26名**

ミャンマー事業の活動報告



10月に佐賀市内で行われたタイフェスティバルにて

地球市民の会の活動を通して
ミャンマー農村の暮らし・魅力を発信する

国内イベント・フェアトレード商品販売 時期：通年

ミャンマーの文化や魅力、農村地域の課題に取り組む私たちの活動を知ってもらうことを目的として、日本国内でのイベントへ出展しています。2019年度は佐賀県内での駐在員帰国報告会や、東京で行われた「ミャンマー祭り」へのブース出店、佐賀市内で行われた「タイフェスティバル2019」への出店を行いました。

日ごろ私たちの活動を支えてくださる方々をはじめ、地球市民の会の活動に興味を持ってくださる方、アジアやミャンマーの文化が好きな方々にたくさんお会いすることができました。

イベントにご参加くださった皆さま、お手伝いくださったボランティアの皆さま、心より御礼申し上げます。

来場および参加者数
600人以上



担当者コメント



柴田京子 (ミャンマー国代表、プロジェクトマネージャー)

2019年は、2018年に開始したチン州事業が形となり始め、長年実施してきたシャン州事業の現地化が進みました。チン州では循環型農業普及の拠点となる「ライレンピー持続開発センター」が完成しました。この「持続開発センター」の名に込めた思いは大きく、地域住民による持続的な開発の実現を目指しています。「持続可能」という言葉はよく目にしますが、それを実現するのはとても困難です。しかし、シャン・チン共に現地スタッフ、地域住民と協力し持続可能な開発を実現していきたいと思っています。昨年度もご支援ありがとうございました。これからもミャンマーチームをよろしくお願い致します。



神崎涼子 (チン州ミンダ事務所プロジェクトアドミニストレーター)

チン州での事業開始から、2019年12月で1年が経ちました。ミンダ事務所とライレンピーセンターの2拠点で、地元出身のスタッフ10名とともに試行錯誤しながらプロジェクトを進めています。乾季は水不足で食器や服を洗えないし、四駆自動車はあまりの悪路に故障の連続。そんな環境ですが、住めば都。プロジェクトが増え、人とのつながりが広がっていくことが楽しく、うれしい毎日です。日本の皆さまにチン州の魅力をもっと知っていただき、チン州ファンを増やしていきたいなあと思っています！



モー・モー・トゥエ (シャン州タウンジー事務所)

ミンガラーバー。私は地球市民の会 (TPA) で働いて4年ほど経ちました。TPAで地域開発をやるのは楽しいです。困難もありますが、地域の発展のために働けるのは嬉しいです。

日本の団体である地球市民の会 (TPA) は、2022年にはシャン州南部から撤退することになっていますが、ローカルスタッフで現地 NGO「TPA Myanmar」をつくり、継続して頑張っていきたいと思っています。国際 NGO では立ち入れない地域や難しい活動を、現地 NGO としてやっていきたいと思っています。

支援を受けたみなさん、一緒に活動したみなさんからの声



★ チョー・セツさん、ビー・ズインさん (ミャンマー/循環型農法3か月研修修了生)

3か月研修で学んだ知識が大変役に立っています。土着菌を使って米を作ったのですが、化学肥料を使っていた去年より10袋も収量が上がりました。米を植える前に落花生を植えておいたのも良かったのだと思います。竹酢液を撒いて、虫を防ぐこともできています。3か月研修で習った方法で鶏を飼って、卵の販売もしています。最近、ホテルからの注文が入るようになってきました。地元の人も、たくさん見学に来ます。まずは自分たちが成功して、循環型農業をもっと広げていきたいです。



タノンボル・ユレナットさん (タイ/志学生プロジェクト第1号)

日本の暮らしは、便利で困らないです。毎月節約して生活します。介護施設の同僚の皆さんは、私が理解していないことについては、いつも学ぶのを助けてくれます。この1年はとても寂しい時期ですが、友達といろんなことができます。友達がいることは一人であるよりもお互いを助け合うことができます。会話が一番大事なので、日本人の友達が欲しいです。毎日、悲しくて疲れてとても落ち込むこともあります。私たちの人生はここで終わらない。私たちの未来を生き続ける必要があります。来年は以前よりも強くなるように努力、より強くなるように努力します。(本人寄稿)



★ サイ・プン・ハンさん (ミャンマー/シャン州シーサイン寮代表)

奨学金をいただいて、貧しい子どもたちの教育のために本当に助かっています。「遠い日本から応援してくれる人がいる。親戚でもないのに支援してくれている。だから自分は頑張らないといけない」と励みになっているようです。勉強がつらくなって怠けたくなくても「自分には支えてくれているさとおやさんがいるから」と、子どもたちは頑張っています。いつも本当にありがとうございます。



● 藤瀬 吉徳さん (日本/三瀬村農泊推進協議会会長)

「地球市民の会」の皆さんとは以前に私がさがグリーン・ツーリズム研究会の会長に就任した時から事務支援をしていただき、とても有難い繋がりがあります。さて、平成29年から始まった農林水産省管轄の農泊事業に三瀬村の観光農園や加工グループ、キャンプ事業を行っている方達と共に取り組むことになりましたが、三瀬村には事務的な役割を担ってくれるような方がいなくて、今回も「地球市民の会」にお願いすることになりました。膨大な事務を責任持って適切に処理していただき、とても助かりました。お陰様で観光農園の看板作りやマウンテンパスの新設、農泊セミナーの開催、ツリーハウス造りなどの山のワークショップなど三瀬村の資源を活かした多彩な活動を展開することができました。三瀬村の地域活性化にも貢献することができて、「地球市民の会」の皆さんにはとても感謝しています。



● 本堀 万里子さん (日本/子どもの居場所づくり実行委員会委員)

地球市民の会がいなければ、子どもの居場所づくりの活動はできていません。私たちができることは、子どもたちと一緒に遊ぶことです。海外の人を招いた交流事業や、大学生への声かけ、食べ物の寄付集めなど、本当に一緒にできて助かっています。道で子どもたちと会った際「遊び場が」いつあると?と聞かれます。コロナウィルスの影響もあり、子どもたちは苦しい状況にあると思います。より、子どもたちに手を差し伸べられる居場所でありたいと思います。

2019年度 ～活動計算書・貸借対照表・監査報告～

活動計算書 (税込) (単位:円)

自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

【経常収益】	
【会費】	
正会員会費	1,951,000
学生会員会費	12,000
賛助寄附会費	407,000
団体賛助寄附会費	410,000
購読会員会費	18,000
【会費】合計	2,798,000
【寄附金】	
本部寄附金収入	719,445
国内寄附金収入	41,612,794
奨学金寄附金収入	4,511,235
ミャンマー寄附金収入	4,617,175
【寄附金】合計	51,460,649
【助成金】	
ミャンマー助成金収入	191,851,403
【助成金】合計	191,851,403
【委託金】	
国内委託金収入	3,011,146
ミャンマー委託金収入	4,646,266
【委託金】合計	7,657,412
【事業収入】	
国内事業収入	525,929
奨学金事業収入	3,000
ミャンマー事業収入	1,755,380
【事業収入】合計	2,284,309
【その他収入】	
利息	238
雑収益	39,568
【その他収入】合計	39,806
経常収益 合計	256,147,579
【経常費用】	
(事業総括)	
【直接事業費】	
国内事業支出	20,737,863
奨学金事業支出	3,629,812
ミャンマー事業支出	170,495,157
【直接事業費】合計	194,862,832
【人件費】	
給料 手当 (事業)	23,700,598
法定福利費 (事業)	2,954,565
【人件費】合計	26,655,163
【その他管理費】	
通信運搬費 (事業)	436,958
消耗品費 (事業)	360,313
印刷出版費 (事業)	193,120
水道光熱費 (事業)	210,249
貸借料 (事業)	322,721
地代・家賃 (事業)	710,331
支払手数料 (事業)	443,651
【その他の管理費】合計	2,677,343
(事業総括) 合計	224,195,338
(本部)	
【人件費】	
給料手当	1,373,700
役員報酬	1,200,000
法定福利費	41,178
福利厚生費	1,157,628
【人件費】合計	3,772,506
【その他管理費】	
印刷製本費	18,941
会議費	203,500
旅費交通費	258,429
研修費	3,780
通信運搬費	42,857
消耗品費	35,340
水道光熱費	20,621
地代家賃	69,669
貸借料	31,651
保険料	49,020
語会費	398,160
租税公課	3,930
支払手数料	43,513
雑費	314,340
【その他の管理費】合計	1,493,751
(本部) 合計	5,266,257
経常費用 合計	229,461,595
当期経常増減額	26,685,984
【経常外収益】	
ミャンマー未使用資金戻入益	108,401,630
【経常外費用】	
ミャンマー未使用資金繰入損	67,600,438
【正味財産増減の部】	
税引前当期正味財産増減額	67,487,176
法人税、住民税及び事業税	81,000
当期正味財産増減額	67,406,176
前期繰越正味財産額	99,084,412
次期繰越正味財産額	166,490,588

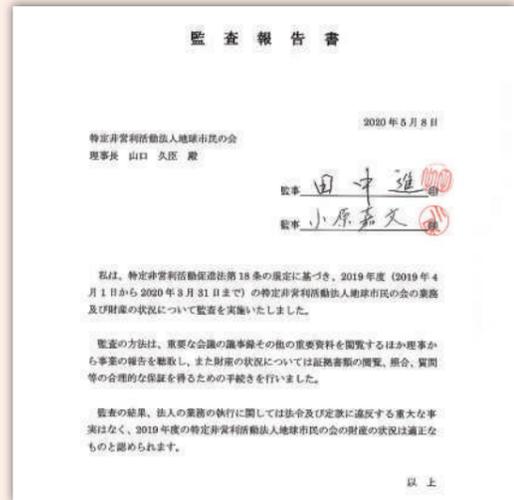
貸借対照表

(税込) (単位:円)

令和2年3月31日現在

《資産の部》			《負債・正味財産の部》		
科目	金額		科目	金額	
【流動資産】	前期末	今期末	【流動負債】	前期末	今期末
(現金・預金)			未払金	1,409,755	4,857,592
現金	306,414	129,337	前受金	960,000	624,000
普通預金	23,909,586	55,150,440	預り金	536,077	297,912
現金・預金計	24,216,000	55,279,777	仮受金	11,000	0
(売上債権)			流動負債計	2,916,832	5,779,504
未収金	519,899	461,903	負債合計	2,916,832	5,779,504
売上債権計	519,899	461,903			
仮払金	3654	0	【正味財産】		
(その他流動資産)			前期繰越正味財産額	63,887,336	99,084,412
短期貸付金	7661,253	6,126,782	当期正味財産増減額	35,197,076	67,406,176
ミャンマー未使用資金	67,600,438	108,401,630	正味財産計	99,084,412	166,490,588
流動資産合計	100,001,244	170,270,092	正味財産の部合計	99,084,412	166,490,588
【固定資産】					
(投資その他の資産)					
出資金	2,000,000	2,000,000			
固定資産合計	2,000,000	2,000,000			
資産合計	102,001,244	172,270,092	負債・正味財産合計	102,001,244	172,270,092

財産目録 (税込) (単位:円)			
令和2年3月31日現在			
科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	55,279,777	未払金	4,857,592
手許現金	129,337	前受金	624,000
普通預金	55,150,440	預り金	297,912
未収金	461,903		
短期貸付金	6,126,782		
ミャンマー未使用資金	108,401,630		
流動資産合計	170,270,092	流動負債合計	5,779,504
2. 固定資産		負債合計	5,779,504
出資金	2,000,000	正味財産	166,490,588
固定資産合計	2,000,000	負債及び正味財産合計	172,270,092
資産合計	172,270,092		



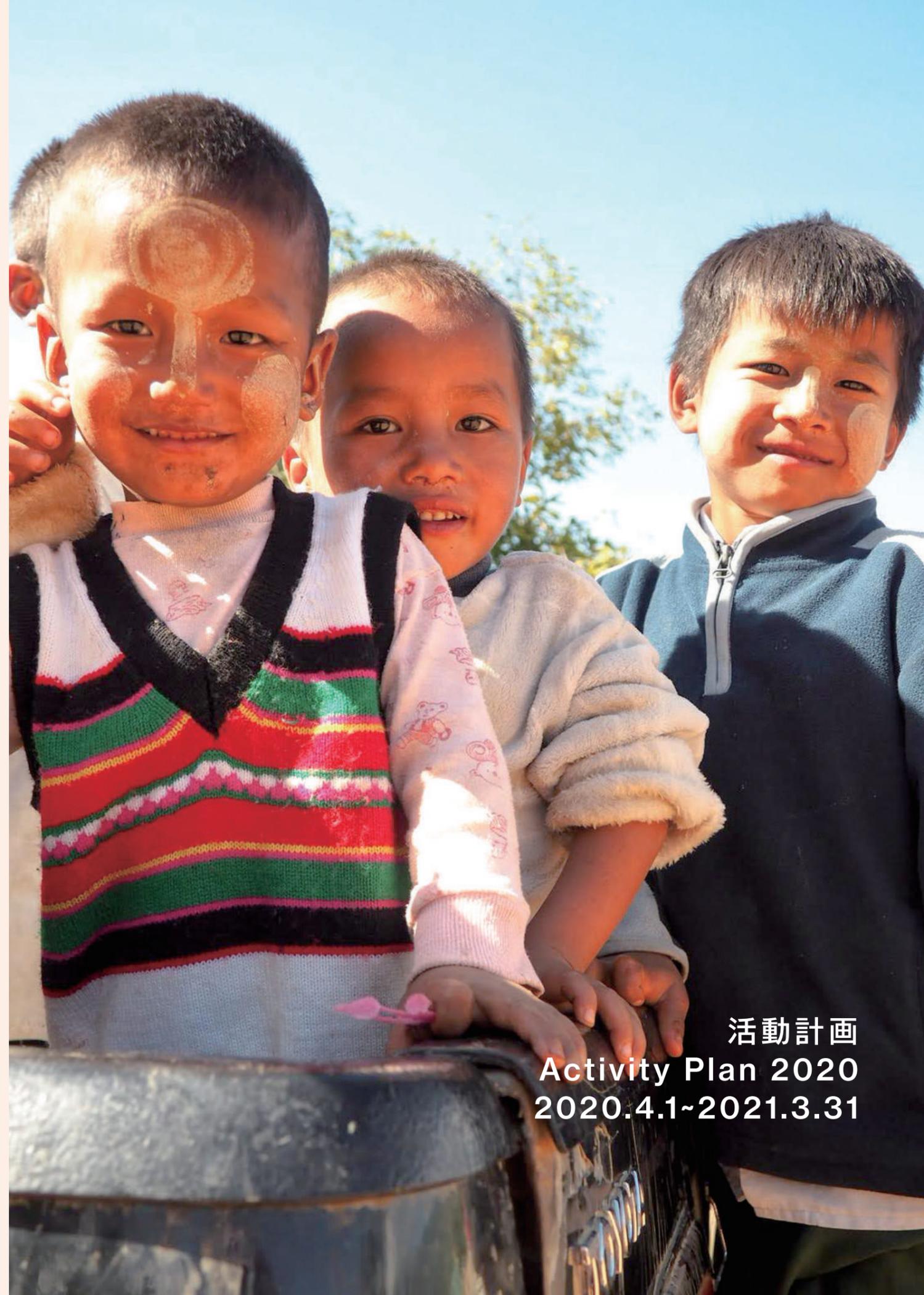
 認定NPO 法人国際協力 NGO センターより、2015年にASC2012の認証を受けました

 非営利組織評価センターより、2019年に佐賀県で初めて非営利組織の信頼性を表すグッドガバナンス認証を受けました

 国連グローバル・コンパクトの原則の実践状況および国連の様々な目標の支持について、このコミュニケーション・オン・プログレスを通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。

持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りである「国連グローバル・コンパクト (UNGC)」に署名をいたしました。



活動計画
Activity Plan 2020
2020.4.1~2021.3.31

2020年度の活動方針

SDGsのテーマである「誰一人取り残さない」社会の実現は、地球市民の会のミッションとも親和性が高いものであり、今の社会の構造を表しているものであります。そのため、SDGsを軸とし、地域に寄り添った事業展開をしていきます。昨今の新型コロナウイルス感染症や貧困、災害など課題が減るどころか、より複雑化しているように思います。そのため、他セクター同士の連携は必須であり、NPOだからこそできる取り組みを行っていきます。また、視点としては、グローバル Glocal (Global + Local) な視点を持ち、経営は補助金・助成金に囚われない、社会課題をビジネス化することで解決する、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスを目指します。

今年度も多くの皆様方より良きご理解とご支援を何卒、よろしくお願い申し上げます。

国内事業



志学生プロジェクト

時期：通年

少子高齢化が日本以上のスピードで進むタイに介護の技術を伝え、農村部出身の学生が貧困の連鎖から抜け出すため、日本で介護技術と日本語を学ぶプロジェクトです。2020年度も1人の学生が来日予定ですが、2020年4月現在、新型コロナウイルスでタイに非常事態宣言が発令された影響で、来日が遅れています。学生の生活面のサポートや、受け入れ先である介護事業所との調整などを行います。

子どもの居場所づくり

時期：通年

佐賀市と連携して子どもの居場所づくりの継続だけでなく、佐賀県全域において子どもの居場所を展開する方々のサポートも行います。地域の大人が地域をも見守る仕組みが各地できるように、行政や同じNPOとも連携して行っています。

SDGs 経営支援事業

時期：通年

SDGs推進を目的に、中小企業へのSDGs導入支援を行っていきます。2030年にSDGsを達成する企業のサポートおよび今後一緒に事業展開できるパートナーとして連携を模索していきます。



有志の社員で会社の理念をSDGsに紐づけるワークショップ

SDGs 官民連携円卓フォーラム運営

時期：随時

2019年に設立した同フォーラムを通して、県民の方々へSDGs普及のためのイベントや講演会などを実施します。

SDGs Academy SAGA

時期：10月以降

新型コロナウイルス感染症の影響で2019年度は延期になっておりました。ただ、2020年度も終息の時期がよめないところもあるため、オンラインでの交流を活用して事業実施を予定しています。

ファンドレイジング（資金調達）

時期：通年

ふるさと納税、ハチドリ電力など様々な手法を活用して資金調達を行います。年間で700名の方々に関わっていただくことを目標とします。

オリーブの森事業

時期：通年

耕作放棄地を活用した里山を保全する事業を実施。地元の団体と連携して、収穫し、販売までを目指します。

災害支援事業

時期：通年

佐賀災害支援プラットフォームの一員として、災害時には県内のネットワークを活かし支援を行っていきます。また、平時は勉強会などを行い、知識の蓄積や団体同士の顔の見える関係を構築していきます。



災害支援は団体を越えた支援の仕組みを

奨学金事業

奨学金

スリランカ・ミャンマーの2カ国で、高校生を中心に奨学金支援を行っています。ミャンマーへの奨学金は優秀ながらも経済的な理由で進学することのできない子どもたちを支援します。スリランカへの奨学金では、勤勉な女子高校生を支援し、さとおやさん（支援者）との交流や日本への招へい事業を通して、将来日本とスリランカの架け橋になってほしいという願いが込められています。



スリランカの奨学生

ミャンマー事業

シャン州

タンボジ農業畜産研修センター／ ナウンカ村落開発センター運営

時期：通年

両センターともに大都市ヤンゴンの有機農産物販売店「グリーンヒル」へ農作物や卵を出荷し、収入向上を目指します。タンボジでは、日本企業と連携して実施しているハトムギ栽培・加工事業も拡大していきます。ナウンカでは、長年続けている農民対象の研修を実施するほか、今年度は栽培技術指導の映像教材の作成にもチャレンジします。



化学肥料や農薬を使用しない循環型農業の実践の様子 (タンボジセンター)

マインピン給水事業

時期：通年

マインピン地域では、豊富な水源があるものの貯水や農地への灌漑設備が整っていないため、雨季しか作物が栽培できず、農家の所得も低水準となっています。給水設備を整備することにより、年間を通じた作物栽培が可能になることを目指します。

インレー湖水質浄化啓発活動

時期：通年

インレー湖の環境悪化要因について地域住民の理解促進と実践のため、環境教育ワークショップの開催や、住民主体で植林活動を行います。



ナウンカ農業用水給水事業

時期：～1月

農業用水を確保するため、堰を整備し、およそ280ヘクタールの農地で二期作が可能になることを目指します。また、堰の建設終了後も地域住民主体で維持管理ができる委員会体制を整えます。



地域の首長たちを中心に構成される堰建設委員会

コミュニティビジネス事業

時期：通年

- ① シャン州における農家の収入向上のため、TPA Myanmarと協働でハトムギの栽培指導や管理を行います。タンボジセンターで加工の後、出荷を行います。
- ② 長年実施してきたモリンガ植林やコーヒー栽培を農家の収入向上につなげるため、モリンガ加工品、コーヒーの販路の構築を積極的に行っていく予定です。
- ③ 農家の収入向上につながる新規作物の栽培実験、栽培指導、販路開拓に取り組んでいきます。

※持続可能な開発目標(SDGs)は、「誰一人取り残さない」世界の実現を目指す、2030年までの国際目標

ホテイアオイ堆肥作製事業 時期：通年

インレー湖の水面に浮遊する外来植物のホテイアオイは繁殖力が高く、インレー湖の水質に影響を及ぼしています。インレー湖流域の地域でホテイアオイの堆肥化を行い、地域の農民が循環型農業の資材として利用できる環境保全体制の確立を目指します。



堆肥化するため湖から引き揚げた水草を乾燥させる様子

現地 NGO 自立支援 時期：通年

ローカルスタッフを中心とした TPA Myanmar (以下、TPAM) というローカル NGO 団体を作り、シャン州の事業を引き継いでいく予定です。TPAM の理念、事業計画立案、ファンドレイジング、Web サイト作成等の能力向上支援を行っていきます。



スタッフ間でのスキルアップ講習の様子 (コーヒーについて)

トゥイリン鉄条網支援事業 時期：通年

トゥイリン村では地域住民主体で農業組合を組織し、コンニャク、コーヒー、アボカドなど複数の作物を栽培することを決定、栽培を開始しました。しかし、周辺の村では、ナナウという水牛に似た大型の家畜を多数飼育しています。ナナウは毎年乾季に放し飼いにするため、トゥイリン村にも頻りにナナウが侵入しました。ナナウによって作物を踏み荒らされたり、苗を食べられたりして、同組合が植えたコーヒーやアボカドの苗がほぼ全滅してしまいました。そのような被害を防ぐための侵入予防柵作製資材として鉄条網を支援しています。



トゥイリン村農業組合のミーティング

学校校舎建設・修繕事業 時期：通年

ピェー中学校は、木造校舎の木材の腐敗などの老朽化が進んでいます。特に床や柱の劣化がひどく、建物内を歩くと校舎が揺れるほど危険な状態にあります。部分的な修繕では間に合わないため、安心・安全な環境で学べるよう、村の人たちと一緒に新しい校舎の建設を行います。同時に学校農園の造成も行い、学校維持管理基金の創出も行います。



斜面に建てられた木造校舎木材の老朽化により校舎全体が歪んでいます

チン州

ライレンピー循環型農業・栄養研修事業 時期：通年

この地域では大多数の人が移動式焼畑農業で生計を立てていますが、過度の焼畑による土地の疲弊が原因で、収量が減少しています。その結果、販売して現金収入を得ることはもちろんのこと、家族が食べる量すら確保することが厳しい状況です。それらの問題解決の為、活動拠点となるライレンピー持続開発センターでは循環型農業の研修や栄養研修を行っています。モデルファームには豚や鶏小屋も建設し、循環型農業を実践しています。



栄養研修の様子

ミンダ町給水設備整備事業 時期：～1月

ミンダ町はチン州南部で最も大きな町ですが、ミンダ町があるミンダ地区で衛生的な水にアクセスできているのは4割弱と言われています。ミンダ町の給水施設は2014年に整備されたものですが、専門家の手によって整備されたものではなく、不都合が起きるたびに応急処置をして何とか使用してきました。1年で最も水の確保が困難な暑季(3～5月)には1～2週間に1度程度しか給水されず、生活用水や飲料水の確保が困難なため健康被害が増加していました。それらの問題を解決するため、水源からミンダ町内の水タンクまでの給水施設の整備を行います。



水タンク建設の様子

ライレンピー地域給水設備整備事業 時期：～1月

現在ライレンピー町では、1日に2時間しか水道栓からの配水が行われません。そのため、毎日水道栓には長い行列ができ、地域住民は水の確保のために半日を費やしています。時間だけではなく、水汲みのために学校に行けない子供や重い水タンクを運ぶことで流産してしまう女性も多く見られます。十分な飲料水・生活用水の確保と循環型農業の実践及び栄養改善を目的とした家庭菜園実施を目的とし、給水設備の整備を行います。

スピルリナを用いた栄養改善事業 時期：通年

ライレンピー町とミンダ町周辺村において、栄養状況の改善を目的として実施します。活動内容は①スピルリナの養殖研究(外部委託事業)、②栄養研修実施(当会実施)、③現地への技術移転(技術者と当会の協働)の3つをメインとし、2年間で地域住民が基礎的な栄養知識を習得し、栄養改善のために地域住民自らが行動できる体制を整備していきます。

エタヤ頼母子講支援 時期：～5月

エタヤ村には小学校があります。小学校には先生の宿舎が併設され6人の先生が住んでいます。また、学校には当然のことながら、トイレがあります。しかし、この学校には水がありません。そのため、トイレで使う水や、先生の生活に使う水を確保するために遠くから歩いて運ぶ必要がありました。その問題を解決するために、地域住民は学校内に水タンクを設置することを考案しました。村全体で頼母子講を実施、利息を水タンク購入に充てることとしました。頼母子講の原資は、当会からの支援と村民からの出資を合わせました。

交流事業 時期：通年

毎年、地球市民の会主催のスタディツアーの実施、鹿児島大学・佐賀大学・東洋大学ツアーの受入などを行っています。地球市民の会が実施している循環型農業普及や環境保全の活動地を訪問し、私たちの活動を通して地域の課題やミャンマーの農村社会について広く知ってもらうことを目的としています。地球市民の会が運営するタンボジセンターでは、ミャンマー人高校生との交流会を催したり、村を訪問して地域文化を体験させてもらったりと、様々な視点からミャンマーの農村を体験できます。また、奨学金事業で支援しているミャンマーのさとごたちが暮らす寮を訪問するなど、支援者の方々と子どもたちとの交流の機会ともなっています。個人でのご訪問や農業視察等の受入れも行っており、国境を越えた文化・技術交流の促進を図っています。

小中高生への環境保全啓発活動 時期：通年

ライレンピー町の小学生～高校生までを対象とし、木の働きや森林伐採に伴う問題などを題材とし、現状の問題を考え基本的な環境保全活動の理解を促すための環境啓発活動を実施します。同時に実践として小規模な学校林を造成します。学校林はアグロフォレストリー農法を用いたモデル林とし、森と人との共生を実践し、若い世代が森を守りながら人の営みが成立することを実感できることを目指します。

学校農園実践事業 時期：通年

ライレンピー町とミンダ町周辺村において、学校農園実践を通じた循環型農業普及を行います。合計3校のモデル校を選出し、循環型農法を用いて学校農園を実施します。農園での作物栽培だけではなく、農園の成果物を用いて栄養教育を行い、児童生徒だけではなく保護者や先生、村民など広く地域住民を巻き込んだ形で実施、知識の習得を目指します。



現地の高校生との交流の様子

2020年度 予算書

2020年4月1日～2021年3月31日 (千円)

収入			支出				
	2020年度予算	2019年度予算	増減額		2020年度予算	2019年度予算	増減額
①会費収入	3,000	3,000	0	①直接事業費	184,520	211,382	▲26,862
②寄付金収入	36,160	54,110	▲17,950	本部	0	0	0
本部	800	300	500	国内事業	39,650	48,250	▲8,600
国内事業	30,560	48,270	▲17,710	奨学金事業	3,156	3,532	▲376
奨学金事業	4,200	5,040	▲840	ミャンマー事業	141,714	159,600	▲17,886
ミャンマー事業	600	500	100	②人件費	38,592	31,120	7,472
③助成金収入	68,882	102,436	▲33,554	本部	2,448	3,012	▲564
本部	0	0	0	国内事業	11,640	9,996	1,644
国内事業	0	100	▲100	奨学金事業	1,368	1,344	24
奨学金事業	0	0	0	ミャンマー事業	23,136	16,768	6,368
ミャンマー事業	68,882	102,336	▲33,454	③その他管理費	6,000	11,000	▲5,000
④委託金収入	2,596	3,100	▲504	本部	2,000	4,000	▲2,000
本部	0	0	0	国内事業	2,500	3,100	▲600
国内事業	2,296	2,550	▲254	奨学金事業	500	900	▲400
奨学金事業	0	0	0	ミャンマー事業	1,000	3,000	▲2,000
ミャンマー事業	300	550	▲250	④予備費	20,230	9,480	10,750
⑤事業収入	2,174	1,250	924	本部	103	4,270	▲4,167
本部	0	0	0	国内事業	6,465	3,374	3,091
国内事業	1,420	600	820	奨学金事業	824	1,216	▲392
奨学金事業	4	0	4	ミャンマー事業	12,838	620	12,218
ミャンマー事業	750	650	100	⑤明許繰越	30,000	0	30,000
⑥その他収入	40	2	38	本部	0	0	0
本部	40	2	38	国内事業	0	0	0
国内事業	0	0	0	奨学金事業	0	0	0
奨学金事業	0	0	0	ミャンマー事業	30,000	0	30,000
ミャンマー事業	0	0	0				
⑦前期繰越金(見込み)	166,490	99,084	67,406				
本部	711	7,980	▲7,269				
国内事業	25,979	13,200	12,779				
奨学金事業	1,644	1,952	▲308				
ミャンマー事業	138,156	75,952	62,204				
収入計	279,342	262,982	16,360	支出計	279,342	262,982	16,360



私たちについて

【ミッション】

世界各国・日本・地域において、他の人の幸せを自分の幸せとして感じられる人、つまり、「地球市民」として、今の幸せを感じながら生活している社会を創ること

【団体概要】

名称 特定非営利活動法人(認定NPO法人) 地球市民の会
設立 1983年7月(2002年に法人取得、2010年に認定NPO法人となる)

【活動対象国】

日本国内、ミャンマー、タイ、スリランカ、中国、韓国

【主な褒章】

サントリー地域文化賞(1988年)/国際交流基金地域交流振興賞(1989年)/佐賀県政功労者知事賞(1994年)/自治大臣表彰(1996年)/厚生大臣感謝状(1996年)/外務大臣表彰(2000年)/にしぎんアジア貢献賞(2003年)/地球倫理推進賞(2006年)/文部科学大臣奨励賞(2006年)/かめのり賞(2017年)/社会貢献支援財団賞(2017年)



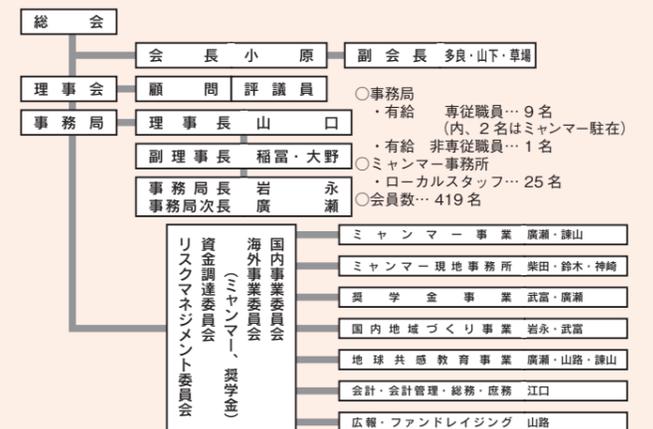
【世界のネットワーク】

北海道地球市民の会/地球市民の会東京/地球市民ACTかながわ/地球市民の会ぎふ/地球市民みえの会/神戸戸有頂天倶楽部/愛媛地球市民の会/北九州地球市民の会/地球市民の会福岡/(一社)アイ・オー・イー/(一社)和スポーツさが/(一社)ユニバーサル人材開発研究所/(同)兼昭/(社)釜山韓日文化交流協会/グリーンヒル

【地球市民の会 36年の歴史】

- 1973年 「佐賀フランス研究会」設立(地球市民の会の前身)
- 1980年 「古賀英語道場・佐賀日仏文化会館」設立
- 1983年 「地球市民の会」設立
- 1986年 第1回小さな地球計画開始
- 1987年 日タイ協力事業開始
- 1988年 日韓交流プログラム「かちがらす計画」開始
- 1990年 地球市民奨学金開始
- 1992年 人間の持つべき文明「テラアビール」発表
- 1993年 地球共感シンポジウム、アジア太平洋協力会議 実施
- 1995年 地球市民運動全国会議実施、スリランカ協力事業開始
- 2002年 NPO法人格取得
- 2003年 ミャンマープロジェクト開始
- 2008年 創始者 古賀武夫 逝去
- 2009年 人間の持つべき文明2009「テラアビール2009」提唱
- 2009年 佐賀市中山間地域づくり事業開始
- 2010年 国税庁より認定NPOとして認定
- 2011年 ASC2008認証
- 2011年 東日本大震災復興支援事業開始
- 2013年 創立30周年記念・北澤氏講演会
- 2015年 ASC2012認証
- 2016年 平成28年熊本地震支援事業開始
- 2017年 非営利組織評価認証
- 2017年 タイ地球市民奨学金終了
- 2018年 地球を翔た異風者 古賀武夫伝 出版
- 2019年 グッドガバナンス認証

【組織図】 ※2020年度



【役員】

- 永久名誉会長 古賀 武夫
- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 名誉会長 山口 祥義 | 佐賀県知事 |
| 名誉副会長 秀島 敏行 | 佐賀市市長 |
| 顧問 井戸 敏三 | 兵庫県知事 |
| 顧問 福田 繁生 | |
| 顧問 今村 雅弘 | 衆議院議員 |
| 顧問 大串 博志 | 衆議院議員 |
| 顧問 小原 健史 | 株和多屋別荘会長 |
| 顧問 小山 高生 | 脚本家 |
| 顧問 坂井 学 | 衆議院議員 |
| 顧問 薩摩 和男 | 株美々卯社長 |
| 顧問 三遊亭園歌 | 落語家 |
| 顧問 上甲 晃 | 志ネットワーク代表 |
| 顧問 中尾清一郎 | 株佐賀新聞社長 |
| 顧問 古川 康 | 衆議院議員 |
| 顧問 原口 一博 | 衆議院議員 |
| 顧問 平湯 慎介 | 平湯コーポレーション代表取締役社長 |
| 顧問 福岡 資麿 | 参議院議員 |
| 顧問 マリクスフェイス 株式会社 | EMキューブインターナショナル |
| 顧問 牟田 清敬 | 牟田法律事務所弁護士 |
| 顧問 山下 雄平 | 参議院議員 |
| 顧問 松村美由紀 | 佐賀県地域交流部国際課課長 |
| 特別会員 青柳 達也 | 佐賀女子短期大学 |
| 特別会員 有岡 大介 | 株サガテレビ 部長 |
| 特別会員 鶴丹谷清和 | TUマネジメント株式会社 代表取締役 |
| 特別会員 大島 隆 | |
| 特別会員 古賀 大之 | 一般社団法人和スポーツクラブさが理事長 |
| 特別会員 小松 敏正 | 小松商店 金属部代表 |
| 特別会員 佐藤 昭二 | 一般社団法人ふる里再生協会専務理事 |
| 特別会員 副島 正幸 | 瀬音寺住職 |
| 特別会員 高橋 良輔 | 青山学院大学 地球社会共生学部教授 |
| 特別会員 田島 広一 | 田島興産株式会社代表取締役 |
| 特別会員 平野 喜幸 | NPO法人れんげ国際ボランティア会ミャンマープロジェクトディレクター |
| 特別会員 藤 雅仁 | 株式会社七浦/道の駅鹿島統括部長/事務局長 |
| 特別会員 前田 英彦 | |
| 特別会員 満岡 聡 | 満岡内科消化器科医院院長 |
| 特別会員 峰 悦男 | 峰公認会計士事務所代表 |
| 特別会員 宮地 大治 | 株佐賀電算センター代表取締役社長 |
| 特別会員 百生詩緒子 | アイシーネット株式会社シニアコンサルタント |
| 会長 小原 嘉文 | 繪野温泉観光(株)代表取締役社長 |
| 副会長 多良 淳二 | 一般社団法人佐賀銀行文化財団 事務局長 |
| 副会長 山下 雄司 | 株サガプリンティング 専務取締役 |
| 副会長 草場 一壽 | 今心工房 陶彩画家 |
| 理事長 山口 久臣 | 一般社団法人アイ・オー・イー代表理事 |
| 副理事長 稲富 正人 | 佐賀県人事委員会 事務局長 |
| 副理事長 大野 博之 | 一般社団法人 ユニバーサル人材開発研究所代表理事 |
| 理事 五十嵐 勉 | 国立大学法人 佐賀大学 全学教育機構教授 |
| 理事 泉 万里江 | 佐賀女子短期大学 |
| 理事 柴田 京子 | 認定NPO法人地球市民の会 ミャンマー代表 |
| 理事(兼任) 多良 淳二 | 一般社団法人 佐賀銀行文化財団事務局長 |
| 理事 田中 啓之 | 佐賀県 県民環境部循環型社会推進課 主査 |
| 理事 鶴田さゆり | 佐賀県地域交流部空港課 副主査 |
| 理事 土井 敏弘 | みどりや茶舗代表 |
| 理事 成尾 雅貴 | 株式会社あえる |
| 理事 西村 一守 | Produce Office Nishimura PON 代表 |
| 理事 西村 尚子 | ステンドグラス工房 グラスパレット主宰 |
| 理事 古川久美子 | 一般社団法人 文化・芸術の泉 アール・フォンテヌ 代表理事 |
| 理事 増田 誠司 | 株増屋 代表取締役 |
| 理事 八田 康博 | 株ワイズコーポレーション 代表取締役 |
| 理事(兼任) 山下 雄司 | 株サガプリンティング 専務取締役 |
| 監事 田中 進 | 株佐賀電算センター 代表取締役会長 |
| 監事 深川 千幹 | 佐賀市立川副小学校 校長 |

協 力 者 一 覧

正 会 員

相川満雄
青柳達也
秋葉幸伸
芦刈由美子
麻生靖史
天ヶ瀬美津代
有澤正典
五十嵐勉
井川尚子
諫山由紀子
泉万里江
稲垣千佳子
稲富正人
井上聖子
井上謙
井上美由紀
今村雅弘
弥富雅信
岩崎正
岩永清邦
岩本かおる
上地章夫
鶴丹谷清和
梅野玲子
江口恵美
大申俊三
大申博志
大野博之
大野勝
尾崎義朗
小野康子
加藤次男
蒲生正裕
唐澤利夫
河野一郎
川原田知章
神崎涼子
菊野善久
北島恭一
北原壽豊
北村直樹
木下武文
木原泰文
草場一壽
栗田明久
久保正敏
古賀大之
古賀慈猛
古賀友大
古賀洋子
古賀愛基
小園拓馬
小原嘉文
小松敏正
米谷正勝
小柳哲朗
小山恭子
坂井邦夫
坂井学
坂井義徳
佐久間博
櫻井愛子
薩摩和男
佐藤昭二
七田聡子
柴田京子
白倉和子
スイージー弾
瑞木一博
杉本互
鈴木亜香里
瀬戸法子
瀬戸晶子
瀬戸幸子
副島正幸
田口光雄
田島広一
田中進
田中啓之
田中陽子
多良淳二
千布浩行
堤加奈子
堤素行
鶴田さゆり
手嶋努
土井敏弘
土井敏行
徳光清孝
長澤京子
中島俊子

永富丈
中満大介
中村清美
㈱中村電機製作所
中村元
中本正一
夏秋葉子
小林敏孝
角田さとみ
高瀬伶
田中光妙
鶴田雅敏
同) TERRACE
中村俊範
南里健
南里葉子
西久保裕彦
馬場憲治
馬場千春
早木睦美
原田裕子
㈱フルーム
八谷まち子
原口一博
原利幸
春木伸哉
秀島彩女
秀嶋正孝
深川千幹
深町浩二
福岡資麿
藤崎博喜
古川久美子
古川昌宏
古川康
堀口勝郎
前田英彦
前山恵士郎
前山由紀子
増田誠司
松尾隼雄
満岡聡
南畑みき
峰悦男
宮崎寛治
宮島町子
宮嶋美子
宮地普工
宮地大治
牟田清敬
村田麗紅
本村満江
森清志
森高康行
森永勝馬
諸井政司
八坂信雄
八田康弘
山口スミ子
山口久臣
山路健造
山下定美
山下伸二
山下春美
山下雄司
山田和江
山本泰
横尾孝幸
吉田英雄
吉次孝
吉村直記

栗林智佳
栗林正則
高祖広季
幸松伝司
古賀大樹
古賀陽三
小林敏孝
角田さとみ
高瀬伶
田中光妙
鶴田雅敏
同) TERRACE
中村俊範
南里健
南里葉子
西久保裕彦
馬場憲治
馬場千春
早木睦美
原田裕子
㈱フルーム
八谷まち子
原口一博
原利幸
春木伸哉
秀島彩女
秀嶋正孝
深川千幹
深町浩二
福岡資麿
藤崎博喜
古川久美子
古川昌宏
古川康
堀口勝郎
前田英彦
前山恵士郎
前山由紀子
増田誠司
松尾隼雄
満岡聡
南畑みき
峰悦男
宮崎寛治
宮島町子
宮嶋美子
宮地普工
宮地大治
牟田清敬
村田麗紅
本村満江
森清志
森高康行
森永勝馬
諸井政司
八坂信雄
八田康弘
山口スミ子
山口久臣
山路健造
山下定美
山下伸二
山下春美
山下雄司
山田和江
山本泰
横尾孝幸
吉田英雄
吉次孝
吉村直記

団体賛助寄附会員

(株)北島
㈱佐賀銀行
㈱佐賀新聞社
税理士法人TACS
(有)ティグレ
㈱福岡商店
一社)ユニバーサル人材開発研究所

寄 附

今村京市
古賀大之
大野博之
古賀重成
新ヶ江一男
成尾雅貴
村田麗紅
本村満江
森清志
NPO法人夢の学校

地球市民サポーター

白濱寿美
新ヶ江一男
藤本愛矢

国内事業寄附

佐賀県民協働課
プリジストン貯ボラ募金事務局
㈱プリジストン

タイ・スリランカ事業寄附

㈱ライフサポートNEO

奨学金寄附

枚方市西牧野ボランティアグループ

奨学金サポーター

荒井早苗
安藤辰美
泉万里江
江見浩彰
岡野美佳
加藤次男
唐澤利夫
川原明実
岸川小百合
争遊会
田代正一
田中道永
牟田泰明
寺丸吉徳
長澤京子
永吉誠
西村尚子
納富ハヤ子
武校会
㈱増屋
松森淳子
宮地信文
ミャンマー祭り

賛助寄附会員

大塚圭子
梅野美和子
江口幸光
江里口五月
音成日佐男
加藤佳美
川松広栄

森誠
山際千津枝
山下敏弘

スリランカ・シジョダ奨学金
粟竹和美
池田サチ子
伊東山優子
江口恵美
江口幸光
大坪美穂
亀井一恵
川崎まり子
黒岩春地
佐々木丘
佐藤正孝
新ヶ江一男
多良淳二
塚原正一郎
中浦裕子
成尾雅貴
南里健
南里葉子
西山喜代(金キョウウン)
博多屋敏明
八谷まち子
山下敏弘
山田美穂子
横山真為子
吉田純子
同)ラフィーネコンサルティン
劉榮俊

団体賛助寄附会員
(株)北島
㈱佐賀銀行
㈱佐賀新聞社
税理士法人TACS
(有)ティグレ
㈱福岡商店
一社)ユニバーサル人材開発研究所

寄 附
今村京市
古賀大之
大野博之
古賀重成
新ヶ江一男
成尾雅貴
村田麗紅
本村満江
森清志
NPO法人夢の学校

地球市民サポーター
白濱寿美
新ヶ江一男
藤本愛矢

国内事業寄附
佐賀県民協働課
プリジストン貯ボラ募金事務局
㈱プリジストン

タイ・スリランカ事業寄附
㈱ライフサポートNEO

奨学金寄附
枚方市西牧野ボランティアグループ

奨学金サポーター
荒井早苗
安藤辰美
泉万里江
江見浩彰
岡野美佳
加藤次男
唐澤利夫
川原明実
岸川小百合
争遊会
田代正一
田中道永
牟田泰明
寺丸吉徳
長澤京子
永吉誠
西村尚子
納富ハヤ子
武校会
㈱増屋
松森淳子
宮地信文
ミャンマー祭り

野内直穂美
納富ハヤ子
合同会社葉隠
花澤美和子
馬場信禎
瀧元多美
林欽彌
平野京子
廣瀬雄樹
深町浩二
藤木修
藤田佳典
船山求
細井輝彦
前山恵士郎
前山由紀子
牧いおり
真子ハマヨ
松尾大輔
松林久美子
松山朋子
的野直喜
豆田千明
峰松登美子
牟田泰明
安川義巳
山路健造
山路さなえ
一社)ユニバーサル
人材開発研究所
吉井学
吉田純子
吉原弘子
Lithe株式会社
劉榮俊

スリランカ・シジョダ奨学金
粟竹和美
池田サチ子
伊東山優子
江口恵美
江口幸光
大坪美穂
亀井一恵
川崎まり子
黒岩春地
佐々木丘
佐藤正孝
新ヶ江一男
多良淳二
塚原正一郎
中浦裕子
成尾雅貴
南里健
南里葉子
西山喜代(金キョウウン)
博多屋敏明
八谷まち子
山下敏弘
山田美穂子
横山真為子
吉田純子
同)ラフィーネコンサルティン
劉榮俊

団体賛助寄附会員
(株)北島
㈱佐賀銀行
㈱佐賀新聞社
税理士法人TACS
(有)ティグレ
㈱福岡商店
一社)ユニバーサル人材開発研究所

寄 附
今村京市
古賀大之
大野博之
古賀重成
新ヶ江一男
成尾雅貴
村田麗紅
本村満江
森清志
NPO法人夢の学校

地球市民サポーター
白濱寿美
新ヶ江一男
藤本愛矢

国内事業寄附
佐賀県民協働課
プリジストン貯ボラ募金事務局
㈱プリジストン

タイ・スリランカ事業寄附
㈱ライフサポートNEO

奨学金寄附
枚方市西牧野ボランティアグループ

奨学金サポーター
荒井早苗
安藤辰美
泉万里江
江見浩彰
岡野美佳
加藤次男
唐澤利夫
川原明実
岸川小百合
争遊会
田代正一
田中道永
牟田泰明
寺丸吉徳
長澤京子
永吉誠
西村尚子
納富ハヤ子
武校会
㈱増屋
松森淳子
宮地信文
ミャンマー祭り

神崎加与子
北村達雄
小原孝嗣
相良貴子
富重奈々
新ヶ江一男
酢谷竹雄
高木晴光
寺園加代子
寺村真一
富野ともえ
鳥谷真弓
中根緑
南方特男
西川温子
西田伸二
西田精実(株)
花泉雅徳
久居ライオンズクラブ
ひなた村保育園
福島優
健友会 藤田健臣
保谷栄子
松田克彦
御厨初美
三井物産(株)
宮瀬美津子
本坂道一
森高一
森誠
森明給子
山口久臣
山中充

野内直穂美
納富ハヤ子
合同会社葉隠
花澤美和子
馬場信禎
瀧元多美
林欽彌
平野京子
廣瀬雄樹
深町浩二
藤木修
藤田佳典
船山求
細井輝彦
前山恵士郎
前山由紀子
牧いおり
真子ハマヨ
松尾大輔
松林久美子
松山朋子
的野直喜
豆田千明
峰松登美子
牟田泰明
安川義巳
山路健造
山路さなえ
一社)ユニバーサル
人材開発研究所
吉井学
吉田純子
吉原弘子
Lithe株式会社
劉榮俊

スリランカ・シジョダ奨学金
粟竹和美
池田サチ子
伊東山優子
江口恵美
江口幸光
大坪美穂
亀井一恵
川崎まり子
黒岩春地
佐々木丘
佐藤正孝
新ヶ江一男
多良淳二
塚原正一郎
中浦裕子
成尾雅貴
南里健
南里葉子
西山喜代(金キョウウン)
博多屋敏明
八谷まち子
山下敏弘
山田美穂子
横山真為子
吉田純子
同)ラフィーネコンサルティン
劉榮俊

団体賛助寄附会員
(株)北島
㈱佐賀銀行
㈱佐賀新聞社
税理士法人TACS
(有)ティグレ
㈱福岡商店
一社)ユニバーサル人材開発研究所

寄 附
今村京市
古賀大之
大野博之
古賀重成
新ヶ江一男
成尾雅貴
村田麗紅
本村満江
森清志
NPO法人夢の学校

地球市民サポーター
白濱寿美
新ヶ江一男
藤本愛矢

国内事業寄附
佐賀県民協働課
プリジストン貯ボラ募金事務局
㈱プリジストン

タイ・スリランカ事業寄附
㈱ライフサポートNEO

奨学金寄附
枚方市西牧野ボランティアグループ

奨学金サポーター
荒井早苗
安藤辰美
泉万里江
江見浩彰
岡野美佳
加藤次男
唐澤利夫
川原明実
岸川小百合
争遊会
田代正一
田中道永
牟田泰明
寺丸吉徳
長澤京子
永吉誠
西村尚子
納富ハヤ子
武校会
㈱増屋
松森淳子
宮地信文
ミャンマー祭り

ミャンマー事業サポーター
北園健二郎
寺井弘
花泉雅徳

書損じ葉書・古切手・未使用切手他
朝川里美
井上茂成
上口智恵子
上地章夫
岡野美佳
鐘ヶ江洋
唐澤利夫
唐津市社会福祉協議会
木曾智子
九州ろうきん佐賀支店
草場栄美
倉富博美
コジマリカ
佐賀北高通信
佐賀県医師信用組合
佐賀県民協働課
城北中学校
佐賀森管理署
相良貴子
未永真由
新ヶ江一男
早田和久
武雄市社会福祉協議会
つつみクリニック
常原拓真
手嶋努
富野ともえ
中島康子
永田秀喜
鍋島幼稚園
鍋島小学校
成尾雅貴
東田雄一郎
東田優子
マルハン東与賀店
御厨初美
満岡信子
三瀬中学校
宮嶋八重子
本村喜代
山崎絵理
山下敏弘
吉原弘子

企業協力
小松商店金属部
㈱損害保険ジャパン佐賀コールセンター
㈱サニフロン佐賀営業所
マルハン東与賀店
SBI損害保険

支援者の方々からの声

地球市民の会の活動は、ご寄付や会費をしていただく支援者さんと、活動を支えていただくボランティアさんのおかげで支えられています。本当にありがとうございます。支援者さんとボランティアさんからの声をご紹介します。

【さとおやさん】 中根 緑さん (57)

個人的にミャンマーが好きで、ミャンマーのためになることができると「タンボジ奨学金」を知り申し込みました。月々1,000円、日本ではせいぜいランチを食べるだけで消えてしまう金額です。それなのに、同じ金額でミャンマーでは若者一人が教育を受けられるようになるのです。なんと有効なお金の使われ方でしょうか。さとごから手紙が届くと、自分の少しばかりのお金が届いているのだな、と実感することもできました。

タンボジセンターを訪問しさとごたちに会いました。まだ高校生なのに、親元を離れて勉強や農業を学んでいるさとごたちが愛おしく、たくましく感じました。そして、自然豊かな環境に不思議と清々しい気分を味わうことができました。さとごたちが生活していることによって、人間の暮らしの原点のようなものを感じたのかもしれない。さとごたちのおかげで、貴重な体験を与えてもらったのだと思います。さとごたちに感謝です。チェーズッティンパーデ (ミャンマー語で「ありがとう」)。



【支援者さん】 御厨 初美さん (68)

私と地球市民の会の関係は、長男の同級生が地球市民の会のスタッフだったことから始まりました。教育は財産、学ぶことが国の発展に繋がるのではないかとこの考え話したことがミャンマーへの学校建設の第一歩になりました。

これまでに4回ミャンマーを訪れ、タンボジセンターでの子どもたちとの交流、人の心とのふれあいを大切に感じています。子どもたちの澄んだ瞳や、あどけない顔を見て、少しでも寄り添っていければという思いが14年間続いています。ミャンマーは今や私のセカンドホームです。

頑張っているスタッフの方たちに少しでもお手伝いができたらと思いつつ、自分への励みにもなってます。貴重な経験をさせていただき、地球市民の会の方々に感謝とともにエールを送ります。



【古着提供】 SBI 損害保険カスタマーサービス 2部 (鳥栖・福岡) さま

社員参加型社会貢献活動の一環として、衣類等の寄付を行いました。手作りの回収ボックスを使い、約170名所属の佐賀・福岡の事業所にて衣類等の提供を募った結果、衣類等202点、未使用はがき等21点が集まりました。

社員からは「地球や人のことを思いながら活動することで温かい気持ちになれた」という声が寄せられました。また今回の取組をきっかけに、学校で勉強することが容易ではない環境の中でも、将来の夢に向かって懸命に学んでいるアジアの学生のみなさんの姿を改めて知ることができました。

この度の寄付が少しでもお役に立てると嬉しく思います。これからも社業やボランティア活動を通じて、社会の維持・発展に貢献する活動を行ってまいります。



*たくさんのご寄附をいただき、ありがとうございます。2019年4月1日～2020年3月31日の期間にご入金くださった方を掲載させていただきました。
*大変失礼ですが、敬称は省略させていただきます。

いろいろなご支援を紹介

地球市民の会は皆様のご寄付によって支えられ、活動ができております。
 会員、ご寄付、ふるさと納税、ボランティアなど、様々な方法で皆様のご協力を募っております。
 ○認定 NPO 法人へのご寄付は寄付控除の対象です。正会員・学生会員・購読会員会費は対象外です。

地球市民の会の活動全般を支える

地球市民サポーター

「世界中の人がお互いに支え合い、世界中の人の幸せを願える社会を作る」
 地球市民の会の活動を支援します。月々のご支援額は 1,000 円～となっています。



(地球市民サポーター
紹介ページ)

そのほか会員制度

種別	会費(月)	年会費	寄付控除の対象
正会員	1,000 円	12,000 円	× (議決権あり)
学生会員	500 円	6,000 円	× (議決権あり)
賛助寄付会員	個人	1,000 円	○
	団体	5,000 円	○
購読会員	250 円	3,000 円	×

国内支援 (国内事業、国際交流事業)

ふるさと納税

ふるさと納税を使って NPO を支援できるのは
 佐賀県だけ!
 社会貢献をしながらお得に寄付ができる仕組み
 です。

※佐賀にお住まいの方は、寄付はできますが
 返礼品をお届けすることはできません。

ふるさと納税 地球市民の会



遺贈寄付

遺言に基づき、亡くなった方の財産の一部や全
 部を寄付することを「遺贈」と言います。
 「人生最後の社会貢献」として、ご検討ください。

ボランティア

平日、事務所での事務作業や切手の仕分け、イベントのお手伝いなどを募集しております。
 学生からシニア世代まで幅広い方々にお越しいただいております。
 来られる日に、好きな時間のボランティア大歓迎です！ インターンも随時受付しております。

子どもたちに教育の機会を提供する/ミャンマー、スリランカの子どもたちを支援する

奨学金

ミャンマー、スリランカの 2 か国で、経済的に困難を抱える高校生の支援をしています。
 子どもたちとの手紙の交流や、奨学生の招へいも行っています。

支援方法	名称	支援額	期間	さところからの手紙
一対一	ミャンマー シャン奨学金	月 2,000 円	3 年	○
一対一	スリランカ シショダヤ奨学金	月 1,000 円	4 年	○
奨学金 10 口で 一人を支援	ミャンマー タンボジ奨学金	月 1,000 円～	3 年	○
無指定	奨学金サポーター	月 1,000 円～	自由	×

物品寄付

ご寄付をいただいた商品は販売したり、愛好家
 の方に買い取っていただくなどして換金し、子
 どもたちの教育のために使います。

・古着 (ブランド品)

ブランド品 (洋服やバックなど) は買取サービス
 「Brand Pledge」を通じてご寄付いただけます。

Brand Pledge 地球市民の会

・お宝エイド

貴金属やカメラなど自宅に眠るお宝商品を査定
 して、査定額に 10% を上乗せした額が、アジ
 アの子どもたちの奨学金支援に繋がります。

お宝エイド 地球市民の会

・古切手、書き損じはがき

当会では、未使用の切手、消印のある使用済
 み切手や余った年賀状、印刷間違いで出せない
 ハガキを募っております。

Syncableバースデードネーション

スタッフの誕生日に合わせて寄付を募る仕組み。
 寄付の使い道は毎回異なります。

2019 年度は 2 回実施、ミャンマーの子ども
 たちの教育のためにご寄付をいただきました。

Syncableバースデードネーション



電気で支援する

地球市民の会はこの度、ハチドリ電力と提携しました。

ハチドリ電力は CO₂ ゼロ、原発ゼロの実質自然エネルギー 100% の電気をお
 届けしています。

毎日必ず使う電気をハチドリ電力に切り替えると、家庭からの CO₂ が大幅に削
 減されるだけでなく、月々の電気代の 1% が地球市民の会に寄付されます。

電気代が安くなることも多いので、ぜひ切り替えを検討してみませんか？



(ハチドリ電力説明ページ)



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

認定NPO法人 地球市民の会

〒 840-0822 佐賀県佐賀市高木町 3-10
※業務時間 / 土・日・祝を除く 9:00 ~ 17:30
TEL : 0952-24-3334 / FAX : 0952-26-4922

E-mail : office@terrapeople.or.jp
Website : <http://terrapeople.or.jp/>



地球市民の会



@tpasaga



terrapeopleassociation